

令和4年 9月 20日

城里町議会議員 金長 秀範

議員研修報告書

研修先	「町村議会広報研修会」
日程	令和4年9月20日(火)
参加者	広報委員6名、議長、事務局1名 合計8名
【内容】	
1 「そろそろ化けませんか!!」 議会広報ファシリテーター 熊本大学客員教授 ～絶滅危惧から持続可能な議会広報へ～ 越地 真一郎 氏	
世のキーワードは「持続可能」(SDGs)。情報に対する住民の目が肥える中、議会だよりは現状のままで生き残れるのか。“大化け”の必要性と方策を考えます。	
2 これからの議会広報を考える 東京都杉並区広報専門監 ～住民に“伝わる”情報発信と広報紙作成のポイント 谷 浩明 氏	
ポストコロナを見据えた“伝わる”情報発信の考え方とともに“伝わる”広報紙作成のポイントをみなさんと一緒に考えます。	
3 優秀議会広報クリニック エディター 吉村 潔 氏	
3つの議会広報が教えてくれること 広報広聴は地道な蓄積で、容易に「解」や「成果」は得にくいものです。令和3年度広報コンクール受賞トップ3を取り上げ、その実践的・持続的な「改革」と「次」への挑戦にフォーカスします。	
【所感・課題等】	
広報とは、Public(公衆) Relations(関係構築)の略。広聴(広く聴く)&広報(広く報せる)。一方的な情報発信になるのではなく、町民の顔や意見も反映している誌面作りが重要。	
とにかく普段から町民とのコミュニケーション・対話を増やし、議会傍聴にももっと多くの町民が参加して頂く仕組みづくり・連携したアプローチがそもそも必要だと感じます。	
議会と町民を繋ぐ議会だよりは、インパクトがあり見易くて分かり易い校正や展開が必要。更に町民の顔写真や貴重なご意見を常に掲載・連載する事で、町民と議会との距離が縮まる。	
コンクール受賞されたトップ3の広報紙は、・議員主導・読者目線・住民参加・ビジュアル化・問題提起・エビデンスという6つの視点・キーワードを上手に盛り込み活用してる。	
また議会独自のTwitterやFACEBOOK・インスタグラム等も開設運用し、普段から身近に感じて頂く事も大切かと・・・ 報告もクイズ形式にして参加したくなるような仕掛けも◎。	